



# Pictet Global Market Watch

## バイオ医薬品関連株式、2018年1-3月の振り返りと今後の見方

2018年1-3月期のバイオ医薬品関連株式市場は、世界の株式市場が大きく変動する中、株価の変動は大きくなったものの、騰落率はほぼ横ばいとなりました。このような中でも、大型の医薬品企業/バイオ医薬品企業によるM&Aは継続するものと考えます。また世界的に医療費が増加する中で、医薬品の経済性を改善させる画期的な医薬品へのニーズが高まることが考えられ、このような医薬品を生み出すバイオ医薬品関連企業が注目されるものと考えます。

### 年初来のバイオ医薬品関連株式は大きく変動

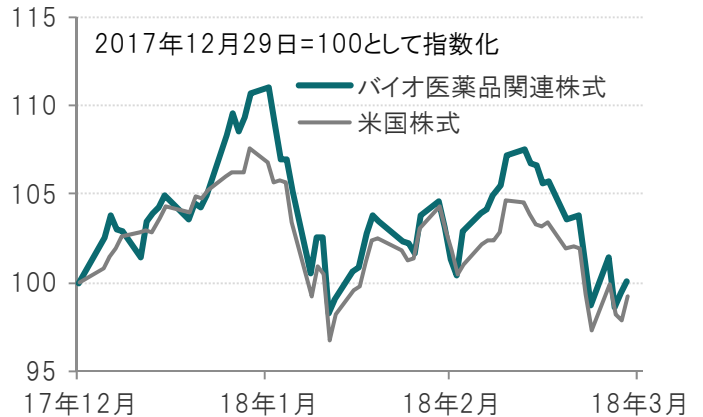
2018年1-3月期、バイオ医薬品関連株式は株価が大きく変動しながらも、+0.1%の上昇(ナスダック・バイオテック指数、ドルベース、配当込み)となり、小幅に下落(-0.8%)した米国株式(S&P500種株価指数、ドルベース、配当込み)を上回るパフォーマンスとなりました(図表1参照)。

2018年1月は、世界的に主要経済指標が堅調な内容となる中、世界経済に対する楽観的な見方が広がったことや、良好な企業決算の発表などを背景に世界の株式市場が上昇基調となり、バイオ医薬品関連株式についても上昇しました。またサノフィ(フランス)によるアプリクス(米国)やバイオベラティブ(米国)の買収、セルジーン(米国)によるジュノ・セラピューティクス(米国)の買収などバイオ医薬品関連企業をターゲットとしたM&A(合併・買収)の動きが活発化したことも、バイオ医薬品関連株式にとって株価を上昇させる要因となりました。しかし2月に入ると、良好な経済を背景に米国においてインフレ懸念と利上げのペースが加速するとの見方が強まり、米国の金利が大きく上昇したことなどから株式市場が下落する中、バイオ医薬品関連株式についても下落しました。また、トランプ大統領が一般教書演説で薬価の引き下げに言及したことや、セルジーン(米国)の多発性硬化症治療薬候補「オザニモド」の承認申請が、臨床試験前のデータ不足を理由に米食品医薬品局(FDA)に受理されなかったことなどがバイオ医薬品関連株式が米国株式をアンダーパフォームする要因となりました。

3月は、上旬は米国が鉄鋼とアルミに対して高率の関税を課すことを発表したことを受け貿易戦争懸念が高まり、一時下落する場面もありましたが、その後は貿易戦争に対する過度の懸念が後退したことや米国のインフレ懸念が和らいだことなどから上昇基調となりました。しかし下旬に入るとインターネットメディア会社の個人情報漏えい問題や米国による中国への関税措置の決定などが悪材料となり、株式市場は素材やハイテクなどを中心に全体的に大きく下落、バイオ医薬品関連株式も大きく株価変動しながら、下落する展開となりました。

図表1: バイオ医薬品関連株式と米国株式の推移

ドルベース、日次、期間: 2017年12月29日~2018年3月29日



※バイオ医薬品関連株式: ナスダック・バイオテック指数、米国株式: S&P500種株価指数、いずれも配当込み  
出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

なお、4月以降も米国の関税措置に対して中国が報復関税を発表するなど、米中の貿易戦争に対する懸念が継続しており、株式市場は株価変動が大きな状態が継続しています。このような中、バイオ医薬品関連株式についてもトランプ政権による政策の不透明感もあり株価の変動が大きくなっています。

＜次ページに続きます＞

※将来の市場環境の変動等により、当資料記載の内容が変更される場合があります。

記載されている個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、当資料におけるデータは将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

## 今後の注目:M&A、医薬品の経済性評価と革新性

バイオ医薬品関連企業を取り巻く環境に大きな変化はないと見ています。2018年は、1月に大型のM&Aが数件成立するなど、年初から活発な状況にありました。大手の医薬品企業やバイオ医薬品企業が有望なパイプラインや治療薬を獲得するためのM&Aは継続すると見られ、さらに2017年末に成立した米国のレバトリ減税もM&Aの動きを支援するものと考えます。

さらに、リスク回避局面では、承認済みで安定した売上を上げている治療薬を有するバイオ医薬品関連企業が相対的に良好なパフォーマンスとなることが多く、このような企業はM&Aのターゲットとしても魅力的であると考えます。

また、世界的に医療費が増加する環境の中で、医薬品の経済性評価(医薬品の費用だけでなく、全体的な治療における効率性を評価)を改善し、治療全体のコストを改善させるような画期的な医薬品に対するニーズが高まることが予想されています。そのためバイオ医薬品関連企業の中でも、独自性の高い有望なパイプラインを有する革新性の高い企業が注目を集めるものと考えます。

科学技術が急速に進歩する中で、バイオ医薬品関連市場では、遺伝子編集など新しい技術の進歩や新しい発見がなされていますが、このような革新的な動きは、主に新興企業や学術研究の中から生まれることが多く、後にこれらの企業がIPO(新規株式公開)を行い、企業として成長する中で市場で評価されていくという流れができています。

一方、足元、株式市場全体の株価変動が大きくなる中、バイオ医薬品関連株式についても、株価変動が大きな状況が続いています。

バイオ医薬品関連株式については、時価総額が比較的小規模な中小型株が多く、さらに新薬候補(パイプライン)の治験結果や新薬承認の動向、競合他社の動向などによって株価が大きく変動することがあり、市場全体に比べ株価の変動が大きい傾向があります。

また、米国における薬価を巡る政治的な議論の内容などによっては、株価の変動が更に大きくなる可能性もあり、これらの点については、注視していく必要があると考えます。

※将来の市場環境の変動等により、当資料記載の内容が変更される場合があります。

### 当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。